

テキスト

乃多摩川洪水普請上
江ノ上ノ水ノ多クハ
郡ノ上ノ水ノ多クハ
郡ノ下ノ水ノ多クハ
右ノ水ノ多クハ
郡ノ上ノ水ノ多クハ
郡ノ下ノ水ノ多クハ
郡ノ上ノ水ノ多クハ
郡ノ下ノ水ノ多クハ

乍恐以書付奉願上候

江川太郎左衛門御代官所武州多摩

郡上谷保村役人物代名主

左衛門下谷保村同名主七右衛門

右兩人右〔より〕当御代官所同郡

府中三町是政村役人共江〔え〕相懸り

府中三町外四ヶ村組合用水



井田即堀割渡而之及前之田村
 道不之之谷海及之上下安延年
 棟柱右之村之海岸之字之海
 道不之之谷海及之上下安延年
 之海東之海之之海年之之海
 以之海年之海年之海年之海
 仕上之海年之海年之海年之海
 七年片之海年之海年之海年之海
 井田即堀割渡而之及前之田村
 道不之之谷海及之上下安延年
 棟柱右之村之海岸之字之海
 道不之之谷海及之上下安延年
 之海東之海之之海年之之海
 以之海年之海年之海年之海
 仕上之海年之海年之海年之海
 七年片之海年之海年之海年之海
 井田即堀割渡而之及前之田村
 道不之之谷海及之上下安延年
 棟柱右之村之海岸之字之海
 道不之之谷海及之上下安延年
 之海東之海之之海年之之海
 以之海年之海年之海年之海
 仕上之海年之海年之海年之海
 七年片之海年之海年之海年之海
 井田即堀割渡而之及前之田村

井筋掘割浚等之儀前々ら「より」田村

道ら「より」四ツ谷海道迄上下谷保村青

柳村右三ヶ村二而「にて」致来字四ツ谷海

道ら「より」下モ之儀ハ府中三町是政村

二而「にて」致来候所去ル三拾年已前文

政五午年未年両年玉川満水

仕上谷保村川除堤ら「より」本瀬切入

七ヶ村御田地多分亡所二相成用水

井筋無跡形押埋候二付其段御

訴奉申上御見分之上井筋掘割

御普請被仰付候場所所有之又ハ

村役（「人」を削除カ）二而「にて」堀割浚等出来候場所

も御座候処追々御田地起返り二候所

用水路之内字四ツ谷海道下モ長百



九十九日... 井... 井... 井...
 情... 井... 井... 井...
 行... 井... 井... 井...
 是... 井... 井... 井...
 地... 井... 井... 井...
 所... 井... 井... 井...
 以... 井... 井... 井...
 主... 井... 井... 井...
 有... 井... 井... 井...
 當... 井... 井... 井...
 者... 井... 井... 井...
 在... 井... 井... 井...
 合... 井... 井... 井...
 十... 井... 井... 井...

拾八間半之処未夕井筋無跡形

場所有之候二付上下谷保村御田地

猶追々起返り二茂〔にも〕可相成旨を以

懸合有之候得共府中三町是政村

地内二而茂〔にても〕用水井筋無跡形場

所多分有之迎茂〔も〕難及自力

候得者〔は〕四ヶ村役人とも篤与〔と〕相談

之上懸合致度旨申聞置候処其段

支配御役所添簡を以去月廿九日

当御役所江〔え〕奉願上候処府中

宿是政村役人共被召出御利解

被仰聞候二付右場所見届ケ懸

合之上熟談内済仕度旨を以昨

十日迄御日延奉願上帰村



之上場所見届ケ懸合之上今般

事柄相分り元井筋掘割出来

之上ハ眼前之上下谷保村荒地起

返りニ相成候場所ニ付字四ツ谷道下モ

ろ「より」長四拾三間之处当春中

上下谷保村ニ而「にて」掘割出来候ニ付

同所続下長百八拾間半之处横

三間平均深式尺五寸掘割之儀ハ

上下谷保村ニ而「にて」引受元井筋相

立候積り然ル上ハ人足賃与「と」して

金八両ハ府中三町是政村ろ「より」出金上

下谷保村江「え」相渡候積対談行届

尤金子取引之儀ハ掘割出来

見届ケ之上相渡候積ニ而「にて」双方一同

無申分熟談内済仕候間何卒以



徳政奉行所
徳政奉行所
徳政奉行所

徳政奉行所

徳政奉行所

徳政奉行所

徳政奉行所

徳政奉行所

徳政奉行所

徳政奉行所

徳政奉行所

徳政奉行所

徳政奉行所

徳政奉行所

徳政奉行所

徳政奉行所

徳政奉行所

徳政奉行所

慈悲右一件是迄二而〔にて〕御下被成下
置度一同奉願上候以上

嘉永四亥年四月

江川太郎左衛門御代官所

武州多摩郡上谷保村

名主

左衛門

下谷保村

名主

七右衛門

当御代官所

同郡府中宿

役人惣代

名主

彦兵衛

”

権八

”

午之助

是政村

名主

周蔵

勝田二郎様

御役所



凡志以筆言其生事終了。

高州多所廢於上言存保月
口無り致胎田路も出管品
たし片之役入百千も
初有種之なる西川方之平康
濱之上言保村之是凶生と
凡或之業之田如耕地廣
こりたると地之上言保村字
下方の川路院之なる中村行
要之能と其在ると言毛月十九
日言の上大風を言西川之移成
流ぬると言其書大之如從先湯水
如事申たると言右片之百法也

乍恐以書付奉願上候

武州多摩郡上下谷保村

同州同郡勝田次郎御代官所

左之村々役人一同奉申上候

私共村々之儀ハ玉川通本瀬

続ニ而「にて」上谷保村「より」是政村迄

凡式里余之間田畑耕地続

ニ御座候処地元上谷保村字雨成

下大ノ切川除堤之儀水下村々肝

要之堤ニ御座候処当七月十九日「より」

同廿二日迄大風雨ニ而「にて」玉川通稀成

洪水ニ而「にて」前書大ノ切堤危場所

出来仕候ニ付右村々一同罷出



嘉永五年

②

此の如く言ふは、此の時、
之行、
長、
り、
を、
當、
一、
流、
屋、
此、
及、
之、
沛、
公、

情々水防方仕候得共一時之大水

二而「にて」行届兼字石田道堤元附

長拾間余切所壺ヶ所出来

同所堤下モ之方長百壺間欠所

出来仕内江通水一圓二押入

当村ハ勿論水下村々田耕地

一流水冠ニ相成候ニ付猶又一同

昼夜之無差別水防方精々

仕候得共素々「より」困窮之村々故難

及自力難渋至極仕候ニ付

今般ヶ所附状并麓図面ヲ以

御普請御願申上候ニ付地元上

谷保村字雨成下川除御普請



中ノ如キニシ 仰存ニシテ
ノ人等ノ如クハ古物ノ如ク
撰別ニシ 行多忠石能ク
清阿又併ニ取テ送テ二日
夜下ノ如ク

信之丞ノ如ク

文部省ノ如ク
上ノ如ク

名之 長也
各々
前年ノ如ク

新ハ

下ノ如ク

清ノ如ク
長ノ如ク
石ノ如ク

信之丞ノ如ク
り舟ノ如ク

御手厚二被 仰付被下置候

ハ、大勢之百姓一同相助り候間何卒

格別之以 御慈悲右願之通

御聞濟被成下置度一同奉

願上候以上

嘉永五子年九月

江川太郎左衛門御代官所

武州多摩郡

上谷保村

名主

左衛門

”

弥左衛門

百姓代

新八

下谷保村

名主

孫三郎

組頭

太四郎

百姓代

彦七

勝田二郎御代官所

同州同郡



嘉永五年

正月

十日

十日

嘉永五年

正月

十日

十日

嘉永五年

正月

嘉永五年

正月

十日

十日

嘉永五年

正月

本宿村

名主

清兵衛

組頭

五郎左衛門

百姓代

五兵衛

府中三町

名主

午之助

”

齊兵衛

”

金兵衛

是政村

名主

周蔵

青柳村

名主

甚之丞

組頭

佐平

百姓代

弥兵衛

江川太郎左衛門様

御役所





嘉永五年七月

十九日

昨夜之雨山方大雨二候哉案外出水牛浜渡船流れ橋は北
二瀬を附尤橋ハ無難也

廿日

陰雨五ツ半時頃は大雨上ケ降五月已来始而之大降二而
田畑共十分之潤ひ也○(前略)熊川出立両用水見廻り之
所九ヶ村取入口ハ無難秋川口ハ本瀬へ切塚前共大破

(後略)○玉川出水

廿一日

昨日夜中今終日夜二入迄大雨上ケ降只例年辰巳は上り
之事定り候所此度は北は上ケ候故歟出水遅く今未上刻
は日野渡船止ル同刻は追々増水也(後略)

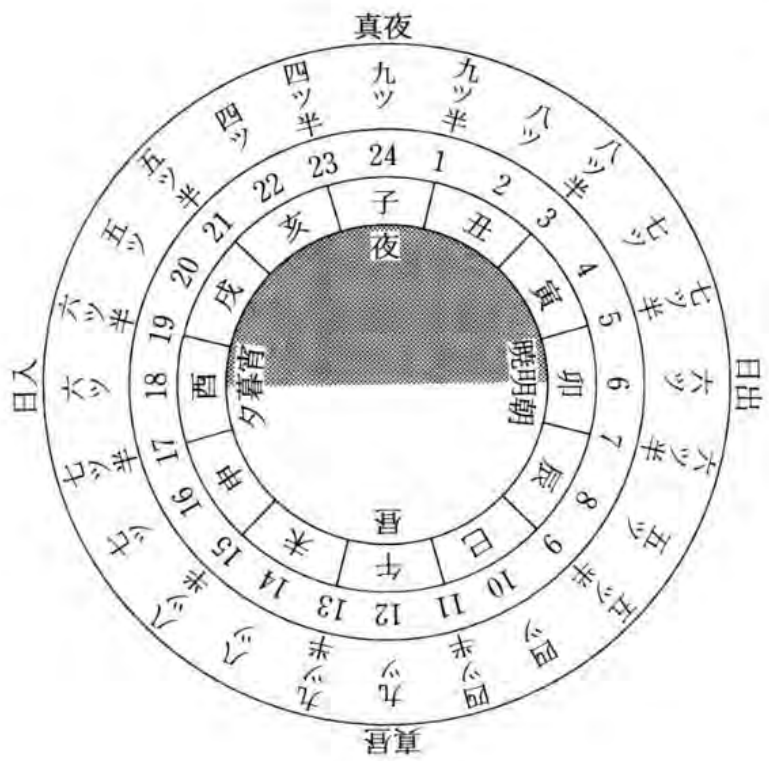
廿二日

連雨上ケ降今曉は南風二返し大風雨玉川洪水今曉八ツ
時満一度減昼四ツ時頃又満午後は追々減夕刻二至やう
く日和廿日午時は今午後迄丸二日二夜之大風雨也古老
之もの噂二は濁水田養水之騒キ四十年来此度之出水三
十年來之事也とそ郷地前自普請所川倉式組立之所は続
梓之通新堤長式拾五間相保其余新堤之分今曉皆流失

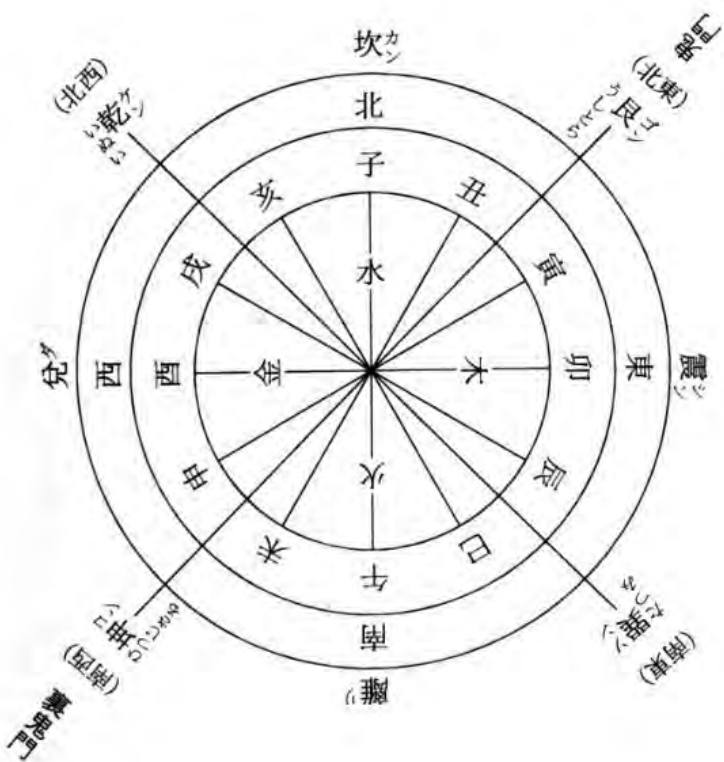
江戸時代の時刻：不定時法 夜明け（明け六ツ）と日暮（暮れ六ツ）を基準とした。

定時法で考えると、子：午前0時を中心とする二時間（午後十一時から午前一時）

時刻法（定時法）



方位



(図は『音訓引き古文書字典』 柏書房株式会社)

